①ぼくが一番かわいそうと思ったことは、蚊の方はいっさいかゆくしようや、いやがれせをしようとは思っていないのに人間のてきにされている　と思いました。蚊は、ねるとない。なぜならウイルスをはこぶたいわけでもないしかゆくさせるためにさしている者はいても者。

②ぼくの家では、さいきんよく小さな虫がとんでいます。ぼくは、その虫がさいりょう、電気かとおるバットでやっつけていましたが、いにうにへりません。もしかしたらどこかでたまごをうんでいるかもしれません。お母さんはこれを「血をすわない蚊だ」といっています。ぼくはその考えで本とに血をすわない虫なんだなと思いました。この話をよんで蚊を大いからにがしてあげようかなといらをもちました。

③ぼくはお母さんに蚊についての思い出について聞いてみました。お母さんがちいさいときは蚊がいっぱいいて毎日たくさんさされていました。とくに足はボコボコでした。でも今は、めったにさされません。理由は、蚊の幼虫のボウフラがせいちょう水たまりがへったからだと思います。蚊にとっていきにくい世界になったんだなと思いました。ぼくはそれをきいて蚊もかこくなんだなと思いました。

④この話にあるとおり・病気のもとがないかぎり、けっしてこわい虫でもなんでもありません。ぼくは蚊がきらいだけところされるのがかわいそうだなと思いました。ぼくはそう思いながら家の虫をながめました